

金融機関の事業継続計画(BCP)と 災害時復旧計画(DRP)策定の コンサル・サ - ビスご提案



株式会社 インフォブレインズ

支援 : 株式会社 金財情報システム

事業継続計画 (BCP) が再度強調される理由

金融業務での BCP の重要度増加の原因は：

- (1) 取引決済金額の増大。
- (2) STP (Straight Through Processing) などの事務処理の高度化。
- (3) システム 通信ネットワーク依存度の高まり。
- (4) J-SOX 施行開始による情報処理システム(IT)の企業経営の最重要基盤 (インフラ)化。

その為、事業継続計画の有効性につき
監督官庁の指導がより強化されつつあります。

BCPの有効性が重要な鍵

- 一昔前の BCP は有効性が疑問です。また、使えない BCP はかえって被害を大きくします。
- 見直し、再策定の場合、情報の抜本的な更新が必要です。
- 判断の基準になる重要なキーはリスクの評価です。これには、BIA (業務影響度分析)を利用して、リスクの定量を行います。
- BCP の有効性はいかにリスクが管理されているかにより、評価します。

次ページ以降にBCPの策定(更新)方法の
評判のよい事例をお見せします。

BCPの為のDRP作成(更新)手順

1

シナリオの決定

BCP・DRPのカバーする災害(障害)の範囲を決める

2

障害(災害)に依る被害額(リスク)の算出

想定される損害額を算出し、BCP・DRPの規模を決める

3

復旧機能の優先度の決定

復旧する各部署、機能の優先度を決定

4

業務処理フローの確認

業務処理の見直しを行う

5

臨時業務の程度の決定

障害(災害)時の臨時業務の程度を決定

6

防御措置の決定

障害 (災害) 時の被害を最小にするための措置を決定

7

組織の決定 設立

B C P ・DRPを実行するための組織を決定し設立する

8

障害 (災害) 時想定訓練

B C P ・DRPの現地訓練

9

DRP記述と訓練報告書の作成

経営陣に成果を提出する

10

B C P ・DRPの更新と定期的な訓練の実施

B C P ・DRP更新は6ヶ月毎に、訓練は一年毎に実施

BCP 策定コンサルの実際

コンサル・サービスによる実際の策定プロセス・ステップ、及び必要時間の概算は以下のとおりです。

1.	シナリオの決定	1～2週間
2.	被害額(リスク)の算出	3～4週間
3.	優先度の決定	2～3週間 (*)
4.	業務フローの確認	3～4週間 (*)
5.	臨時業務程度の決定	3～4週間 (*)
6.	防護措置の決定	4～5週間 (*)
7.	組織の決定	2～3週間 (*)
8.	想定訓練	1～2週間
9.	BCP・DRPの記述	2～3週間
10.	更新と定期訓練	更新は年二回、訓練は年一回

* 印は他プロセスと平行して行われる部分があります。

プロジェクト期間の目安は、六ヶ月から一年以内です。
(長期プロジェクトは有効性に問題が生じます。)

BCP 策定プロセスのタイムチャート

コンサルステップ	一ヶ月	二ヶ月	三ヶ月	四ヶ月	五ヶ月	六ヶ月
1) シナリオの決定 1~ 2	→					
2) 被害額の算出 3~ 4	→	→				
3) 優先度の決定 2~ 3		→				
4) 業務フローの確認 3-4		→	→			
5) 臨時業務程度の決定			→	→		
6) 防護措置の決定				→	→	
7) 組織の決定					→	
8) 想定訓練						→
9) BCP の記述						→
10) 更新、定期訓練						更新は半年毎、訓練は年一回

六ヶ月プロジェクトでの例

コンサルの事例

都市銀行での実例

* 背景 :

銀行の統合と第二センター構築に合わせて数拠点統合のBCPを策定した。

* 手順と現状 :

前述の手順に従って、実地訓練までを実施した。現在計画の更新を継続している。

* 官公庁の評価 :

本年3月の監査は無事合格した。

* 施行期間 :

計画決定から訓練を二回行い、内部監査評価終了まで、九ヶ月を要した。

* プロジェクトの人員 :

銀行側からはチームとしては20名ほど参加した。対象拠点の全銀行職員は500名ほど。内システム要員は30名程。弊社コンサルチームは5名で対応。また、バックアップで2名を確保した。

* アウトプット :

事業継続系計画 (BCP)

(拠点別編と全体編)

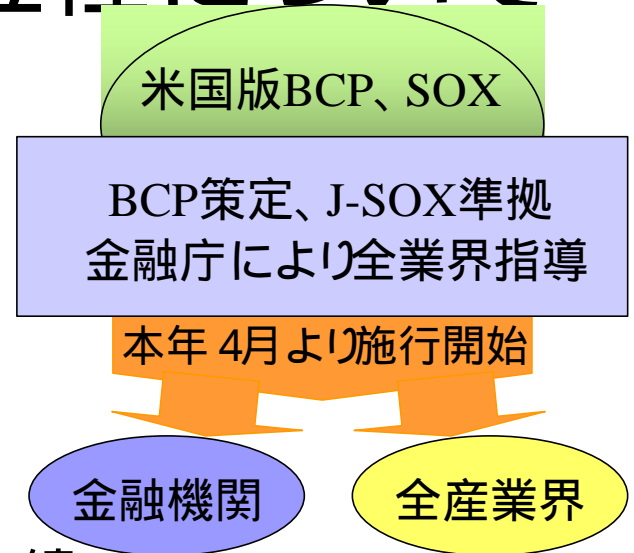
実地訓練報告書

模擬監査結果報告書

(コンサルによるコメント集)

弊社サービスの優位性について

- **スタッフは全員外国企業経験者**
弊社コンサルテーション・チームは全員外国企業、特に米銀において直接 BCP、US-SOX 業務等に直接従事したスタッフで構成されています。
- **広範な業務カバレッジ**
スタッフの経験分野、得意分野に応じて、金融機関、企業の各部署を広くカバー致します。
- **リスク管理を専門としての15年の実績**
弊社は十五年以上のコンサル・サービスの経験を備えており、リスク・ベース分析によるリスク管理、IT、セキュリティ、業務監査、システム監査等に幅広く実績を持ちます。
- **迅速な国際情報と政府情報チャネルを具備**
先進情報に詳しく、国際情報を始めとして、BCP、J-SOX等日本の金融機関、公的機関の情報も精通しており、調査、分析等にも十分なご評価を頂いております。



弊社概要

社名 :株式会社インフォブレインズ

設立 :平成 3年 6月 12日

所在地 :千葉県市川市福栄

Web page: www.infobrains.com

資本金 :一千万円

主要取引先 : きんざいグループ各社

大手都市銀行

米国商業銀行

米国投資銀行

米国版BCP、SOX

BCP策定、J-SOX準拠
金融庁により全業界指導

本年 4月より施行開始

金融機関

全産業界

代表者プロフィール :

代表取締役 木村昌弘

昭和 19年新宿生まれ

東京理科大学応用化学科卒業、核化学専攻

米国半導体製造販売会社、米国商業銀行、投資銀行を経て

平成 3年より現職

株式会社 インフォブレインズ